

女の新聞

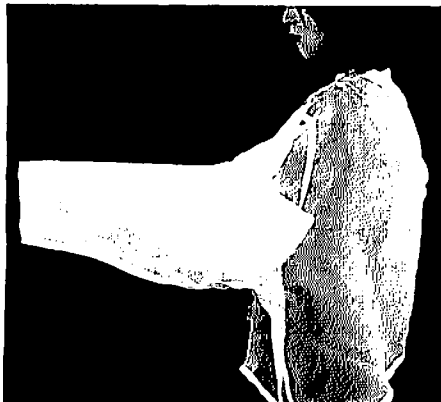
介護

腕に麻痺や痛みがあっても袖通ししやすく、着た時にキレイな服を作りました。



渡辺聰子さん
わたなべ・さとこ「リラ・ヴォ
ーク」代表、山形美容芸術短期
大学名誉教授。店舗はないが、
展示販売あり。ホームページ。
http://www.illasvojar.net

肩や肘の関節の可動域が小さな人も、袖通しが楽になる工夫。



アームホールと「斜め背幅」に余裕を持たせると、肘は曲げたままで袖通しがしやすくなる。



一般的な服はアームホールに余裕なし。肘が曲がっていると袖に腕が通らない。

「アームホール、背幅、着丈がクリアできれば既製服は作れます」

約200人のお年寄りの体の採寸、聞き取り、服作りの試行錯誤を通じて、体の変形や不自由をカバーする3つの条件にたどりつく。

「リウマチ、片麻痺、五十肩などで服の着脱が大変な人も着やすいということでお客様はミドル世代以上の方が多いですが、障がいを持つ20代30代の方も。素材を厳選したシンプルなデザインだからこそ年齢を問わず、個性に応じた着こなしができるのだと思います」

「背幅が窮屈で車椅子が操作しづらい、腕関節の拘縮やリウマチで袖通しできないなど、多くの人が異口同音に服に困っている、と」

「次に私たちが『斜め背幅』と呼ぶラインにゆとりがあること。肩先から背中を斜めに横断し、反対側の腕を曲げた肘先までの長さです。ここにゆとりがあると、肩・肘の関節の可動域が小さな人でも比較的楽に着脱しやすくなります」

「丸み、お腹や腰回りをカバーし、着た時の姿をキレイに見せる。3つの要素はすべて、実際に服に困っているお年寄りから学び、研究者仲間と『これからここを斜め背幅と呼びましょう』という具

まず、アームホールを大きくすることで袖通しを楽にする（上写真参照）。実際に羽織ってみると腕がスルッと入り、着脱に必要な体の動きがひと工程省ける感覚だ。

「おしやれでいることをあきらめなくていい時代になってほしい。自分たちから始めなければ、と」

40年近い教員生活のなかで自分と夫の両親、叔父と叔母、6人を介護し看取った。教員を卒業したら「のんびり田舎暮らし」の夢を先伸ばししての起業。「リラ・ヴォーク」の服を着てデイケアに通うのが楽しみ、外出が好きになつたなど、全国から届く声を励みに新たな道を切り拓いている。

合にゼロから知見を積んだ。服飾の世界で障がいや変形した体はそれほど「見えない」存在だった。

「おしやれでいることをあきらめなくていい時代になってほしい。自分たちから始めなければ、と」

どんなにおしゃれな服でも着脱しづらかったり、着ていてキモチがよくないものとは疎遠になりがち。体に痛みや麻痺があれば、なおさら。だからといって、おしゃれしたいキモチはゆずれない。年齢とともに着たい服と着られる服のギャップは広がる一方だ。

「シニア世代のおしゃれへの関心は高まっていますし、それが心身を元気にすることはさまざまな研究でも明らかに。ただ服を作る側の認識がそれに追いついていませんでした」と言うのは「リラ・ヴォーク」代表、渡辺聰子さんだ。

「リラ・ヴォーク」は、着る人の

体の事情に応じてセミオーダーの服を提供する女性服ブランド。対象年齢はあえて掲げない。

「リウマチ、片麻痺、五十肩などで服の着脱が大変な人も着やすいということでお客様はミドル世代以上の方が多いですが、障がいを持つ20代30代の方も。素材を厳選したシンプルなデザインだからこそ年齢を問わず、個性に応じた着こなしができるのだと思います」

服 飾理論や実技の研究者として大学で教壇に立つてきた渡辺さんがブランドを立ち上げたのは約2年前。そこからさかのぼること十数年間、学生と高齢者施設に通い、車椅子パンツやお年寄りが着たい服・着られる服の研究に取り組んできた。



Tシャツやニットの上にサツと重ねるだけでおしゃれなチュニックベスト1万3000円(送料別)。注文から約1カ月で完成。ポケットやボタンの相談も。



定番の春夏用チュニック。シャリ感のある浜松織物(綿100%)でサイズはS・M・L。セミオーダーで1万4000円(送料別)。注文から約1カ月で完成。

◎介護に関する体験・意見、今後、話を聞きたい人や取り上げてほしいテーマなどがありましたら、はがきか封筒で、〒104-8003 東京都中央区銀座3-13-10 マガジンハウススクロワフサン編集部「女の新聞」介護係までお知らせください。